

日常生活支援住居施設管理者等資質向上研修

山谷地域での実践



特定非営利活動法人 山友会
副代表 油井和徳

旅館
新興館

山谷地域の概況

山谷地域の概況



「労働者の町」から「高齢者の町」へ

- ・ 高度経済成長期（1955年～1973年）には日雇い労働者が集住
- ・ バブル経済崩壊（H3年）以降は日雇い労働が減少し、日雇い労働者の多くが路上生活へ ※H16年5月 897人→R3年4月 172人

簡易宿泊所（ドヤ）数

135 軒（R3年3月） ※S38 222軒

宿泊者数

3,783 人（H30）

宿泊者の 生活保護受給率

89.9 %（H30）

宿泊者の 高齢化率

68.4 %（H30）

1F
タリミック

山友会

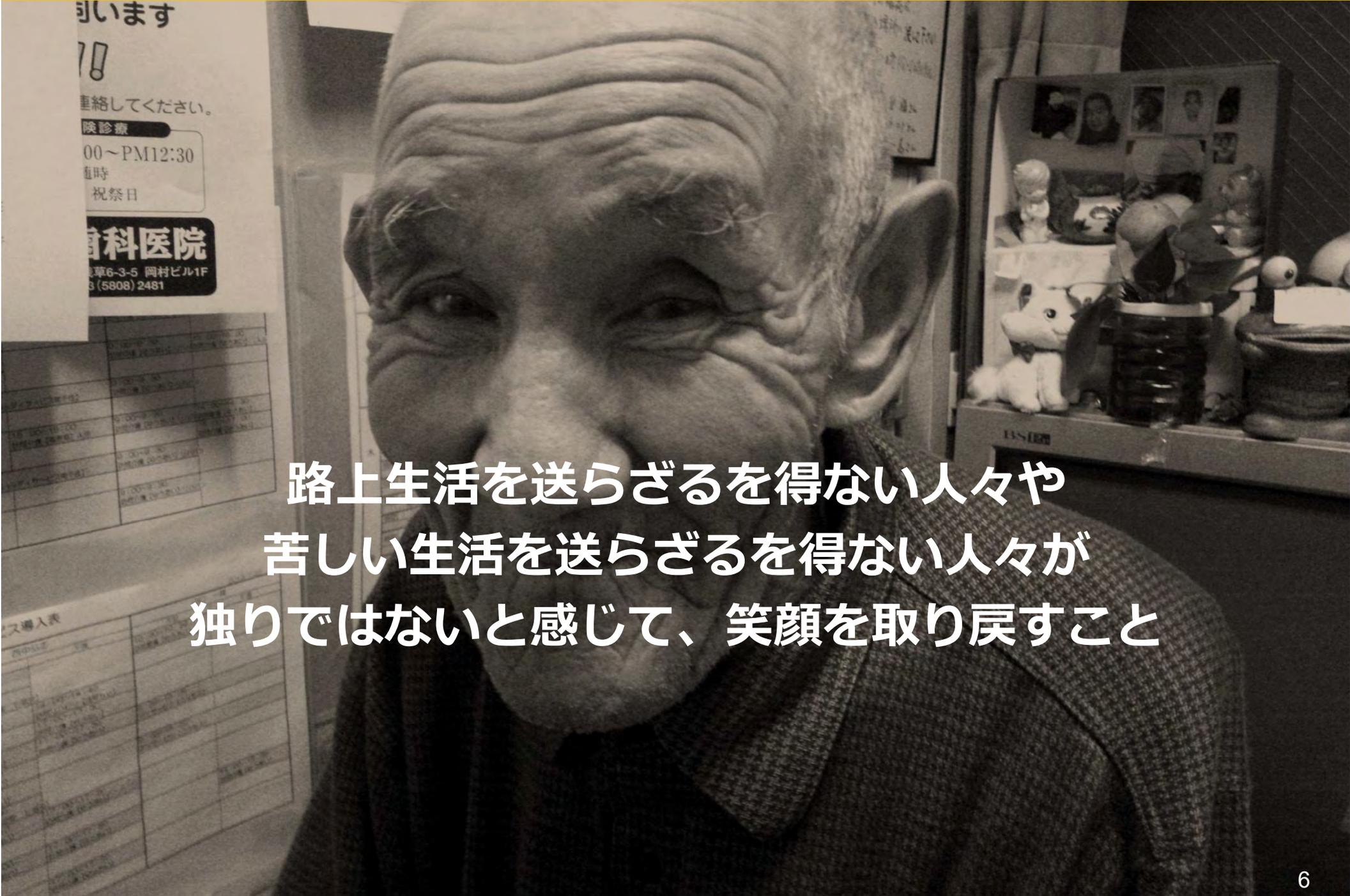
32-8

特定非営利活動法人 山友会

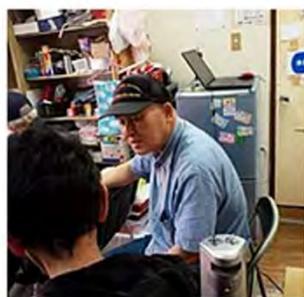
事業概要

11-14-20
消火器
RUS04

私たちのミッション（使命）



路上生活を送らざるを得ない人々や
苦しい生活を送らざるを得ない人々が
独りではないと感じて、笑顔を取り戻すこと



相談室

生活上の問題や健康上の問題に対しての相談支援や、地域生活サポート（見守り、関係機関との連絡調整、緊急時対応）を行っています。



食堂

無料診療所の患者さんや相談室の相談者の方など、山友会を訪れた人々に昼食の提供を行っています。



山友荘

介護が必要であることや、病気や障害のため一人暮らしが難しくなった方のための日常生活支援住居施設を運営しています。



山谷・アート・プロジェクト

山谷や路上で生活している方々に写真で自分を表現し、社会とのつながりを感じてもらおうことを目指しています。



山友会クリニック

おもにホームレスの実態にある方など、健康保険証を持たないことで一般の医療機関を受診できない方々を対象に無料診療を行っています。



炊き出し・アウトリーチ

隅田川沿いに住むテント生活の方や路上生活の方々に対して、炊き出しとアウトリーチ（訪問相談）を行っています。



居場所・生きがづくりプロジェクト

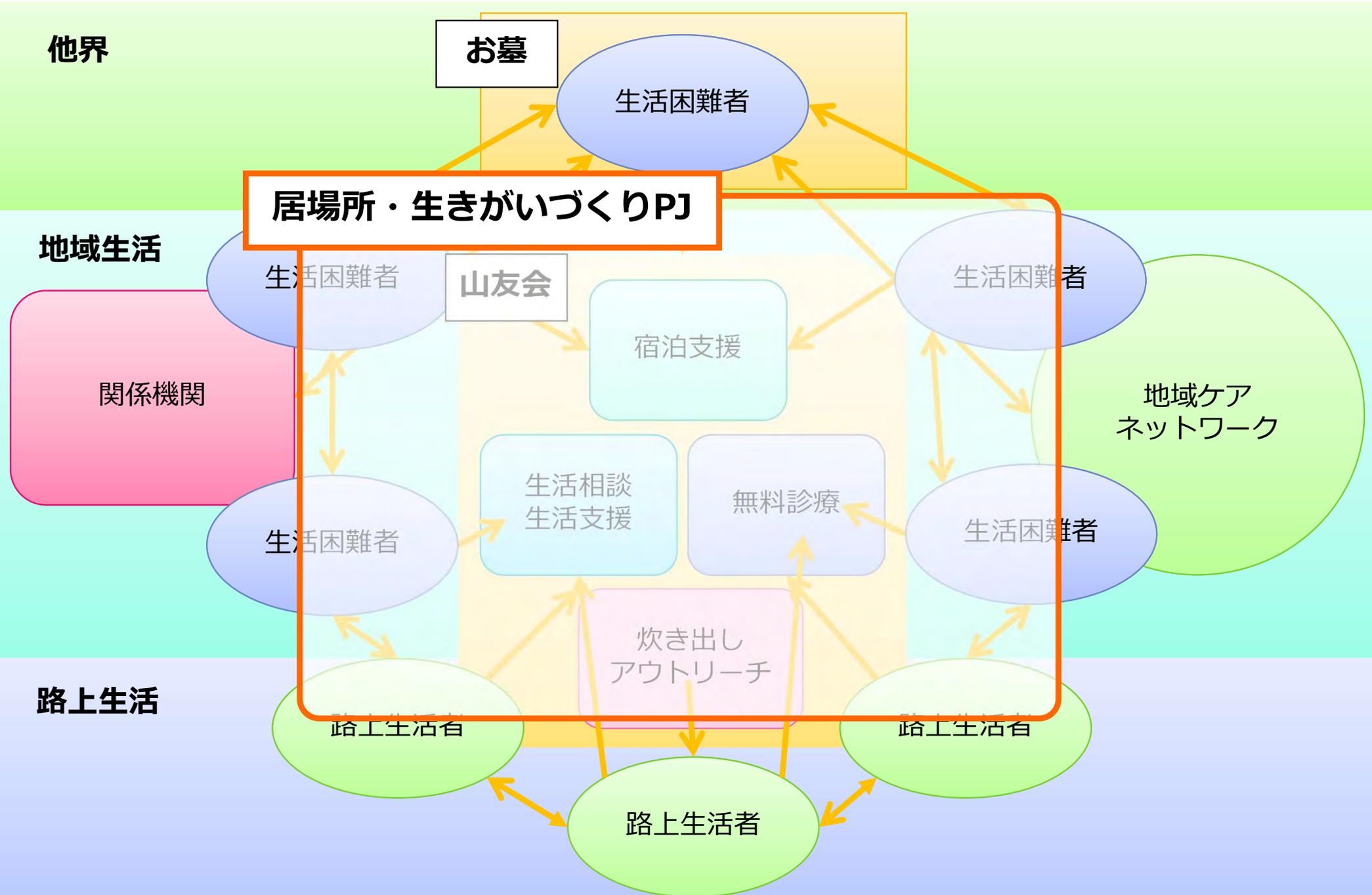
地域の中で孤立せずに暮らすことのできるための居場所と生きがづくりをサポートしています。



共同墓地の運営

山友会とつながりのある路上生活を経験された方々のお墓を運営しています。

支援を通してつながりとコミュニティをつくる



二種社会福祉事業
無料低額宿泊所

山友荘

居住支援事業

日常生活支援住居施設 山友荘

生活支援の実践とその考え方

山友荘
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
TEL: 03-3233-1111
FAX: 03-3233-1112
E-MAIL: info@yamayuzo.jp
www.yamayuzo.jp

施設概要

■入所対象

高齢、障害や病気により地域生活が困難な単身男性

■定員

21名

■利用料

- ・居室使用料 48,000円/月
- ・光熱水費 9,000円/月
- ・基本サービス費 7,000円/月
- ・生活サービス費（食事費） 45,000円/月

※1日3食の食事提供 ※任意サービス

外観



⇒地域の簡易旅館（ドヤ）を借り上げ、リフォーム&バリアフリー化



利用者像

- 高齢、障がいや病気により地域生活が困難な単身男性
- ホームレス状態から関係が継続している支援対象者

年齢

- ・ 平均年齢 76.7歳 / 最高年齢 86歳
- ・ 70歳以上 85% (n=14)

要介護認定及び障害等級の状況

- 介護度及び障害等級の認定を有する入所者 12人 / 14人 (86%)
- 介護度分布上位…要介護5 (3人)、要介護3 (3人)、要介護2 (3人)

入居前居所

- ・ 病院 9人 (64%)
- ・ 他施設 (無低、更正施設) 2人
- ・ 簡易宿泊所 1人
- ・ アパート 1人
- ・ 路上 1人

生計手段

- ・ 生活保護のみ 12人
- ・ 年金 + 生活保護 2人

※データは2021年3月末

居住サービス以外のサービス

- **生活サービス（食事提供）**
- **生活支援**

身体介助・家事援助

- ・ 排泄／食事介助
- ・ 買い物代行 ・ 清掃・洗濯

健康管理サポート

- ・ 通院同行 ・ 往診同席
- ・ 服薬管理 ・ 服薬補助

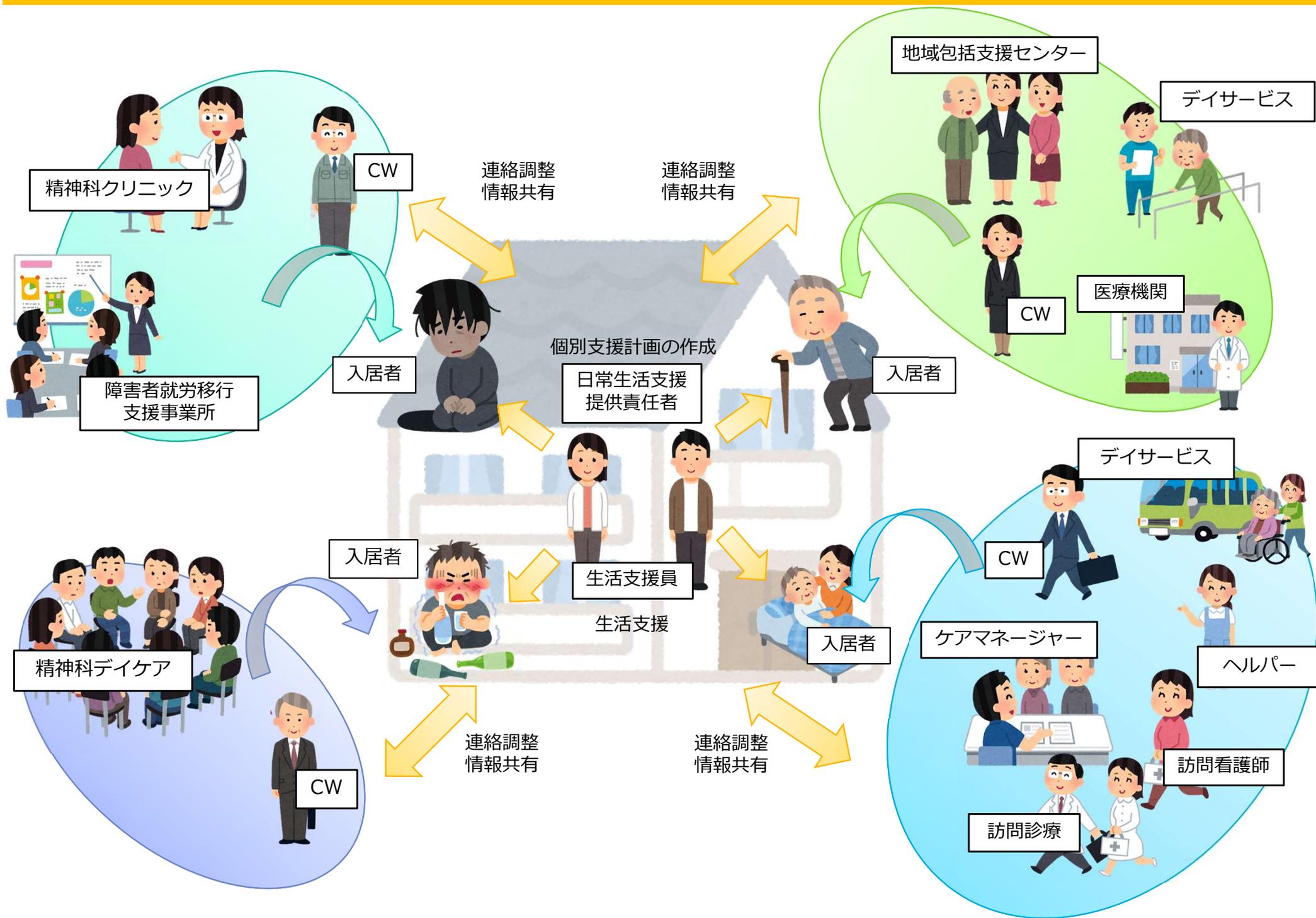
社会サービスのコーディネート

- ・ 福祉制度等の情報提供
- ・ 関係機関との情報共有
- ・ 手続き補助 ・ カンファレンス運営

日常生活行為の補助

- ・ 金銭管理 ・ 重要書類の保管

支援の概観



入所者概況①

平均年齢

平均年齢	76.7
------	------

平均在所月数

平均在所月数	262
--------	-----

路上歴の有無

分類	人数	割合
路上歴 有	11	79%
路上歴 無	3	21%

年齢分布

年齢	人数	パーセント
～49	0	0%
50～59	0	0%
60～69	2	10%
70～79	7	33%
80～	5	24%
計	14	67%

入居前移住地

分類	人数	割合
路上	1	7%
病院	9	64%
簡易宿泊所（ドヤ）	1	7%
無料低額宿泊所	1	7%
更生施設	1	7%
アパート	1	7%
計	14	100%

2021年3月31日 現在

入所者概況②

介護度及び障害等級を有する利用者

人数	12
割合	86%

社会サービスとの連携状況

分類	事業所数
医療機関	7
居宅介護支援事業所	7
通所介護事業所	8
訪問看護事業所	4
計	26

介護度分布

状況	人数
未認定	2
申請中	0
要支援1	0
要支援2	0
要介護1	2
要介護2	3
要介護3	3
要介護4	1
要介護5	3
計	14

障害等級分布（身体）

状況	人数
1級	0
2級	0
3級	0
4級	1
5級	0
6級	0
7級	0
なし	18
計	19

障害等級分布（知的）

状況	人数
1度	0
2度	0
3度	0
4度	1
なし	20
計	21

障害等級分布（精神）

状況	人数
1級	1
2級	0
3級	0
なし	18
計	19

2021年3月31日 現在

社会サービスとの連携状況

社会サービスとの連携状況

社会サービス分類	人数	全入居者に占める割合
医療サービス	14	100%
精神医療	3	21%
介護サービス		
訪問介護	12	86%
訪問看護	10	71%
デイサービス	7	50%
福祉用具貸与	8	57%
訪問リハビリ	4	29%

(入居者総数 14名)

※データは2021年3月末時点のもの

退所者の移行先（開所時～2021.3）※開所…2009.4

分類	人数	備考
アパート	4	
簡易宿泊所	14	
死去（病院）	11	
施設内で看取り	6	末期がん 3名、老衰 3名
施設内突然死	3	
失踪	4	
住み込み就労	2	
他施設（自立援助ホーム）	3	
他施設（無低）	2	きぼうのいえ、友愛ホーム
特別養護老人ホーム	1	
病院	5	
不明	2	
命令退所	2	
養護老人ホーム	1	
計	60	

地域包括ケアを支える居住支援・生活支援資源



ふるさとの会
ふるさとホテル三晃

山友荘

友愛会
ステップアップハウス

きぼうのいえ

ふるさとの会
ふるさと清川荘

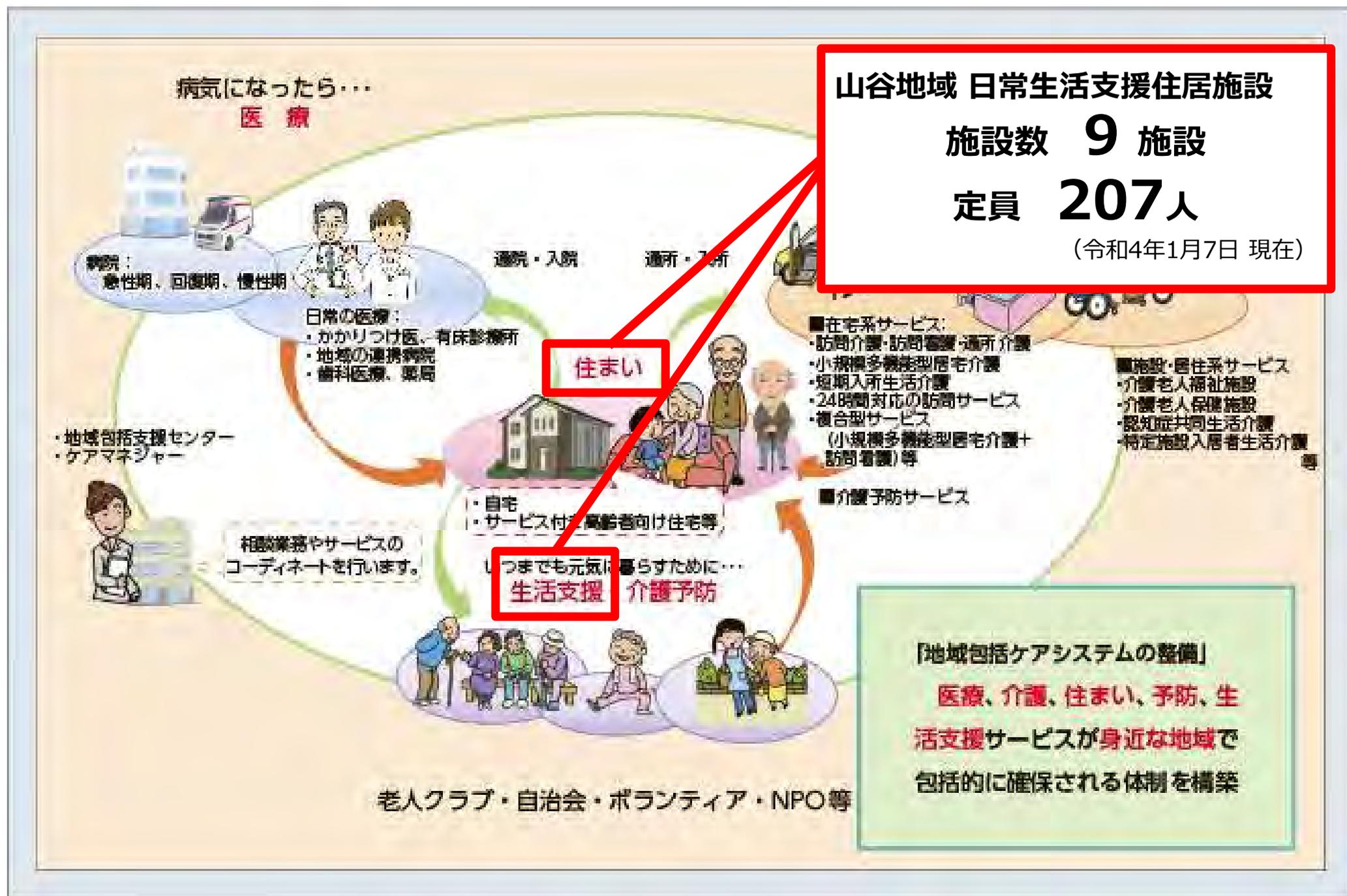
訪問看護ステーションコスモス
コスモスハウス おはな

友愛会
友愛ホーム

ふるさとの会
ふるさと旅館朝日

50m

地域包括ケアを支える居住支援・生活支援資源



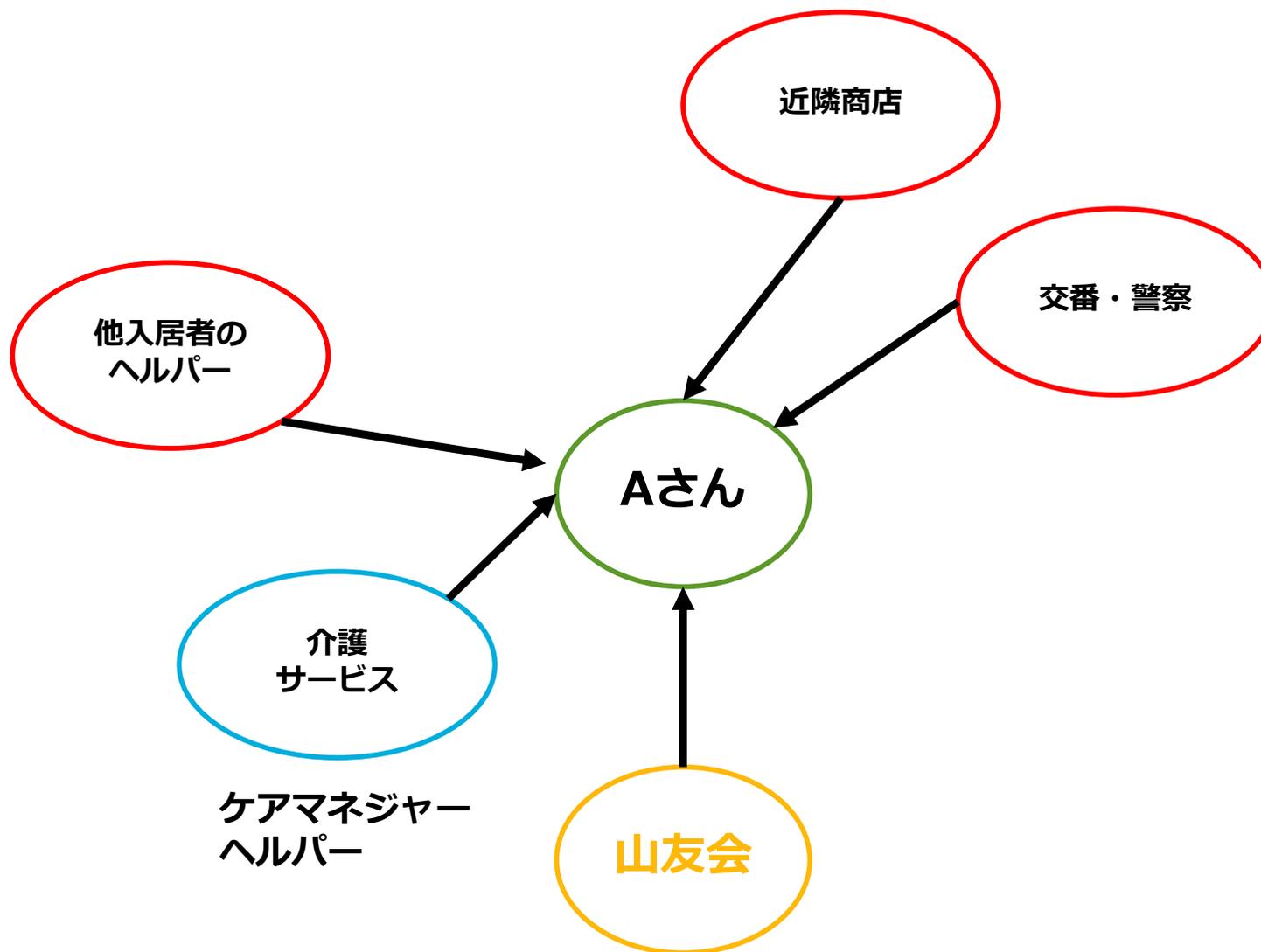
事例

認知症を抱えた方の徘徊

事例：認知症を抱えた方の徘徊

- 80代男性（単身） Aさん
- 軽度の認知症
- 外出時、道に迷い帰れなくなることが頻発
- 発見される都度、迎えに行く
- 氏名、住所、連絡先の記載されたカードを持ってもらう

事例：認知症を抱えた方の徘徊



山友会の“場”の持つ力

■ 出入り自由の誰でも集える“場”

→互いの存在を認識

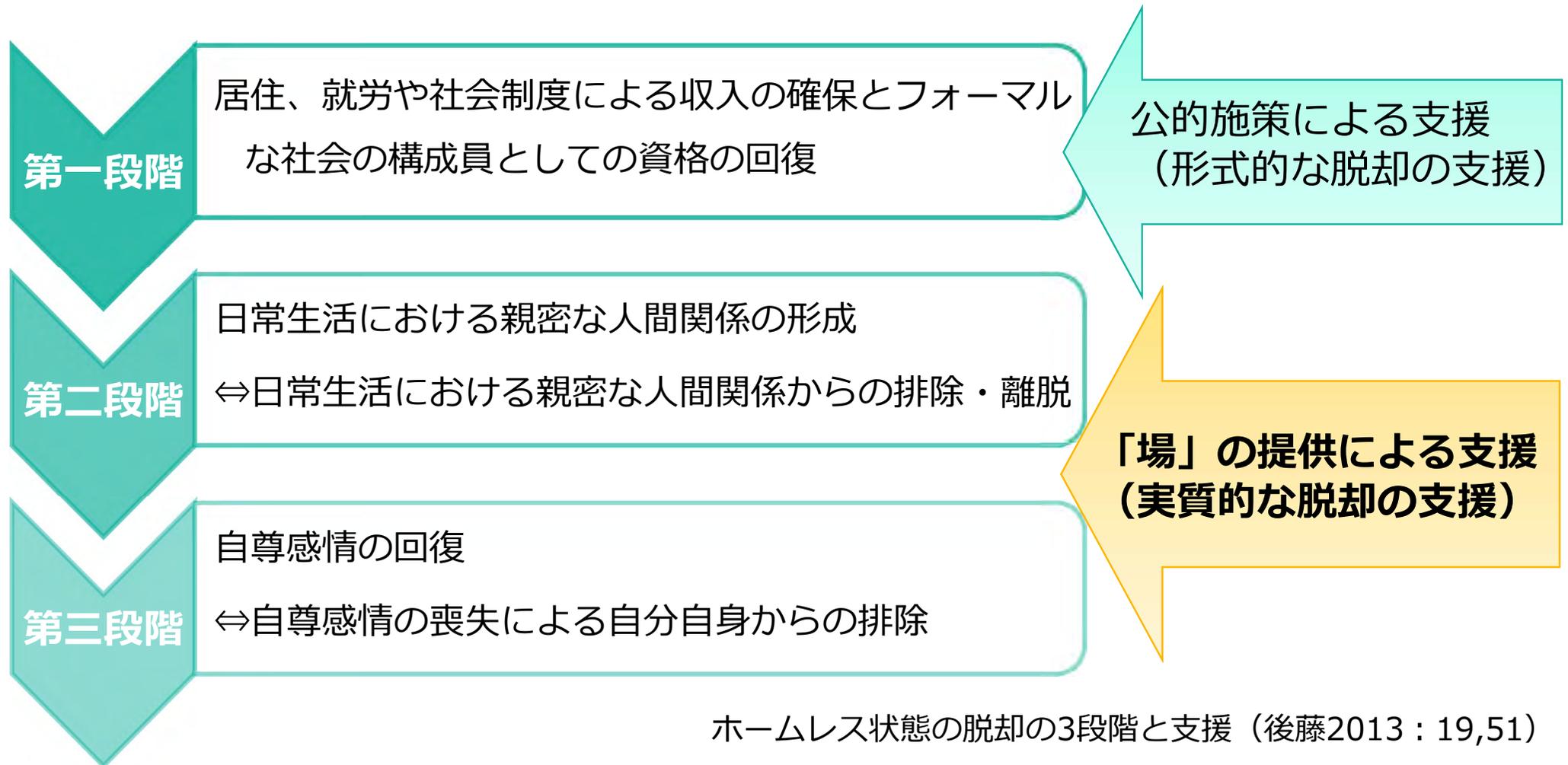
→交流が生まれる

→支え合い・分かち合いが生まれる

「場」の条件

1. 支援者がいること
2. 事情を知っている人の存在があること
3. 「仕事」ができる仕組みがあることー役割の付与
4. 住まいの近くにあること
5. 出入り自由であること

参考：ホームレス状態からの実質的な脱却を可能にする「場」の保障

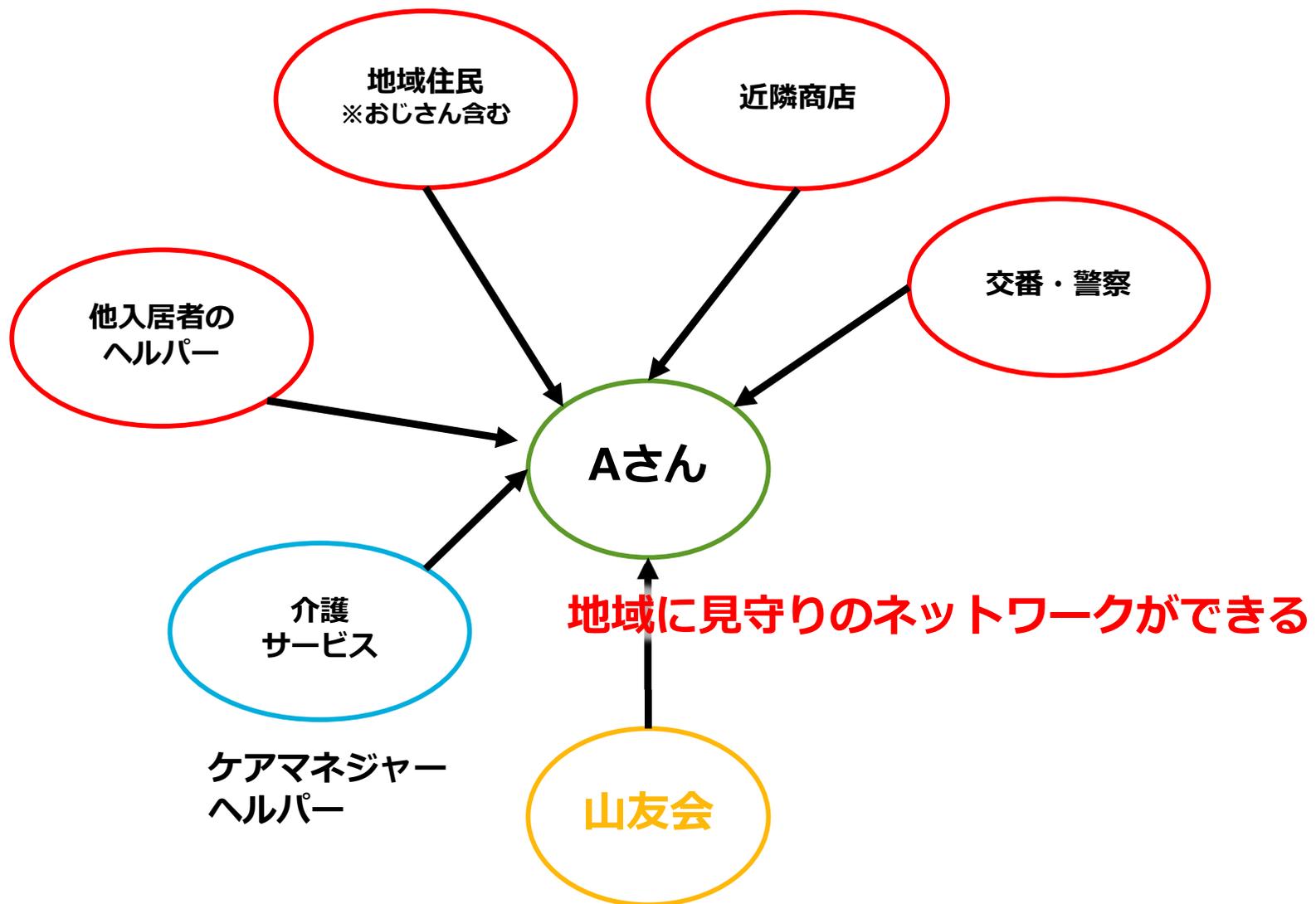


「場」の条件

1. 支援者がいること
2. 事情を知っている人の存在があること
3. 「仕事」ができる仕組みがあること－役割の付与
4. 住まいの近くにあること
5. 出入り自由であること

(後藤2013 : 145-151)

事例：認知症を抱えた方の徘徊



私たちの「生活支援」についての考え方

「生活支援」とは何か？

(何をすれば生活支援として成立するのか)

✘ 介護サービスの隙間を埋める介助・家事援助

✘ 服薬補助・管理、健康管理

✘ 福祉・保健サービスの情報提供・利用援助

私たちの「生活支援」についての考え方

私たちが最もしなければならないことは何か？

(生活支援の専門性とは何か？)

○ 理解すること

- 本人に見えている世界を一緒に見ようとする
- 本人のいるところ（認識、問題意識）から始める

×管理 ×監視

対象者の認識世界

対象者の認識世界

統合

拡張

摩擦・軋轢

寄り添い・伴走

支援者の認識世界

(もっともらしい世界)

支援者の認識世界

(もっともらしい世界)

私たちの「生活支援」についての考え方

私たちが最もしなければならないことは何か？

(生活支援の専門性とは何か？)

○ 対話すること

■ 生活課題を解決する専門性の世界と本人の世界を行き来する

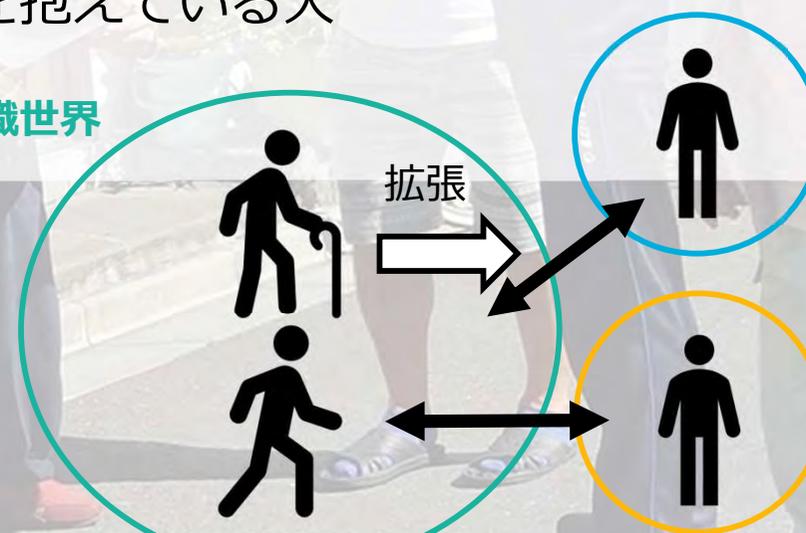
■ 一人の人格を持った人間として向き合う

× 治療が必要な人 × 問題を抱えている人

× 指導 × 矯正

対象者の認識世界

専門性の世界
(医療、保健、介護 etc)



寄り添い・伴走

支援者の認識世界
(もっともらしい世界)

私たちの「生活支援」についての考え方

私たちが最もしなければならないことは何か？

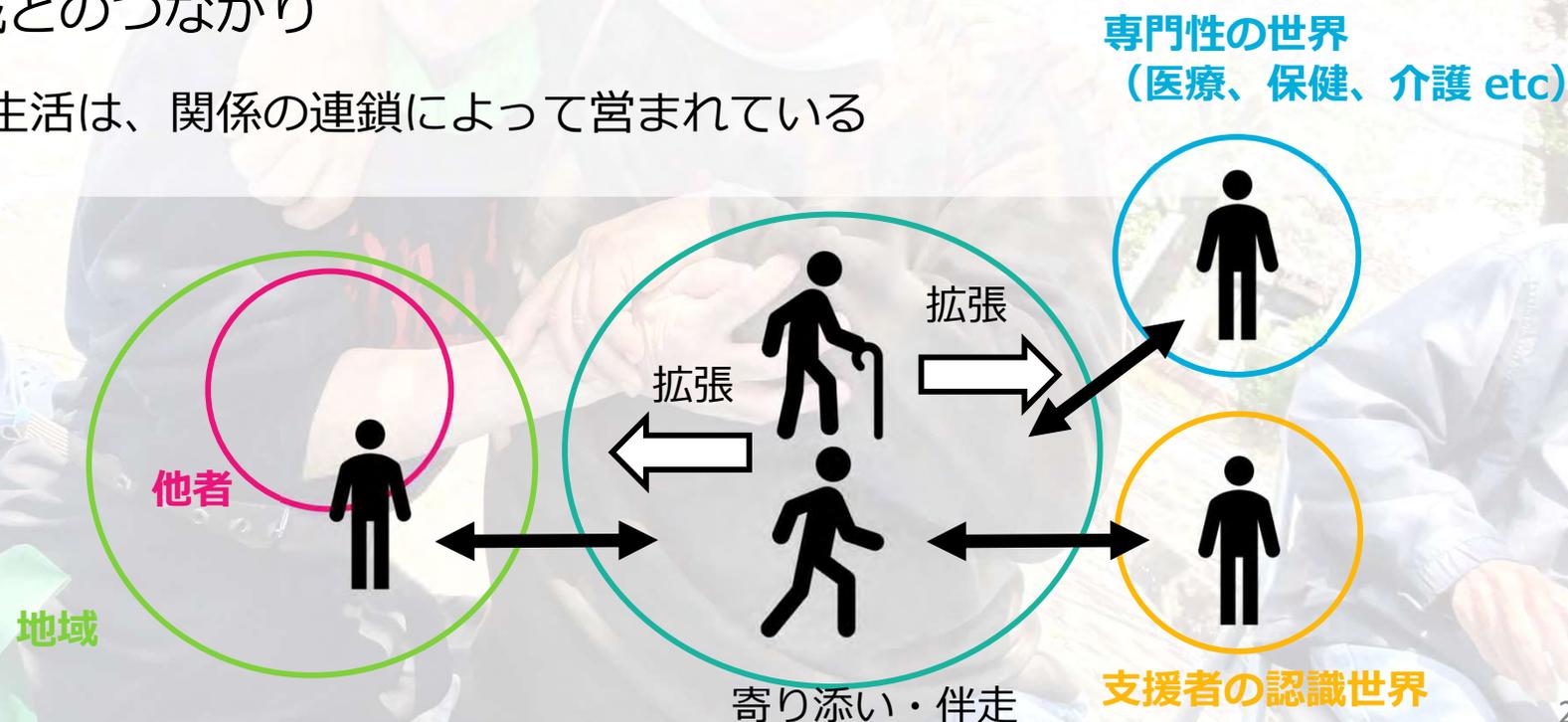
(生活支援の専門性とは何か？)

○ 人との関わりを豊かにすること

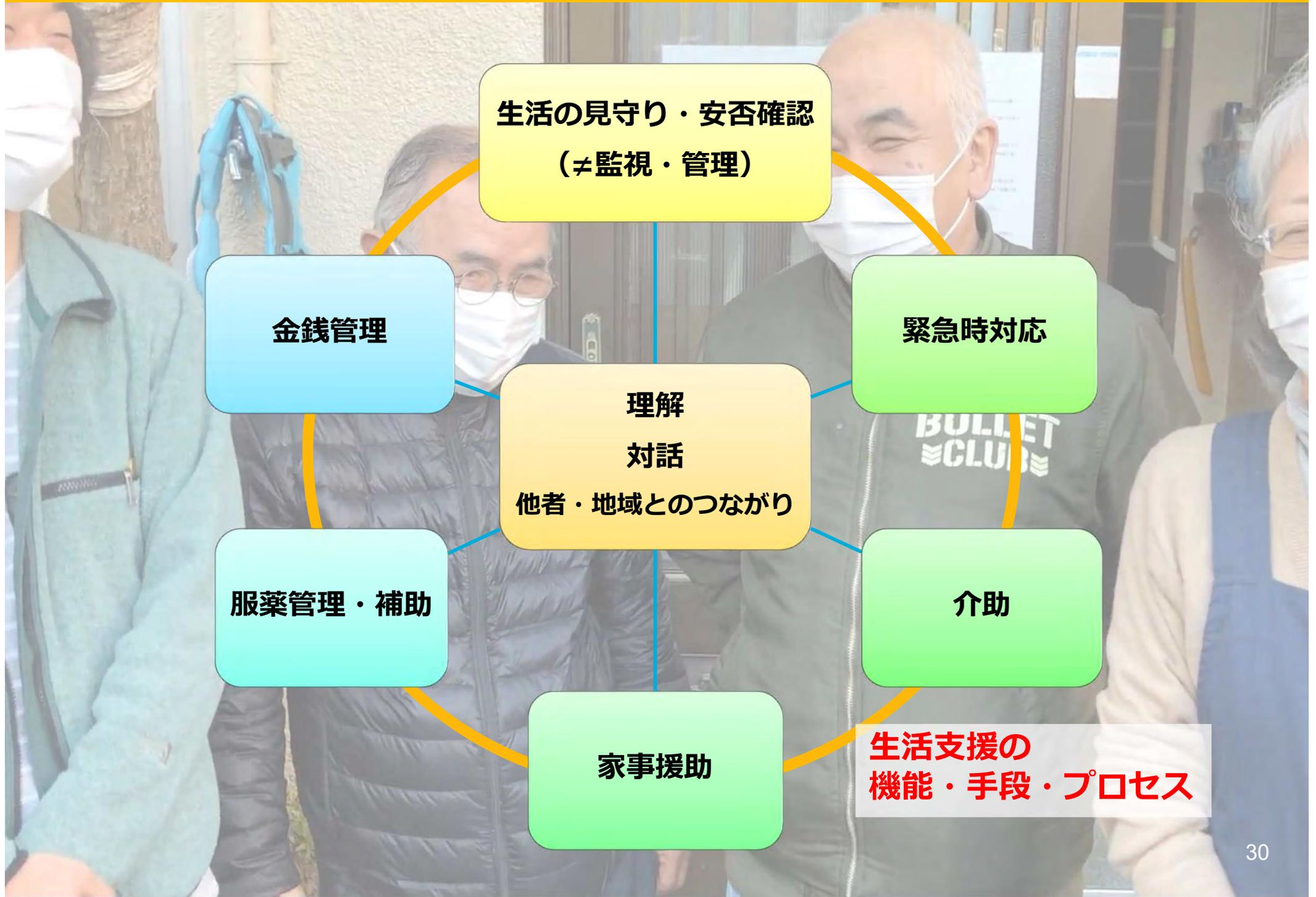
■ 他者とのつながり

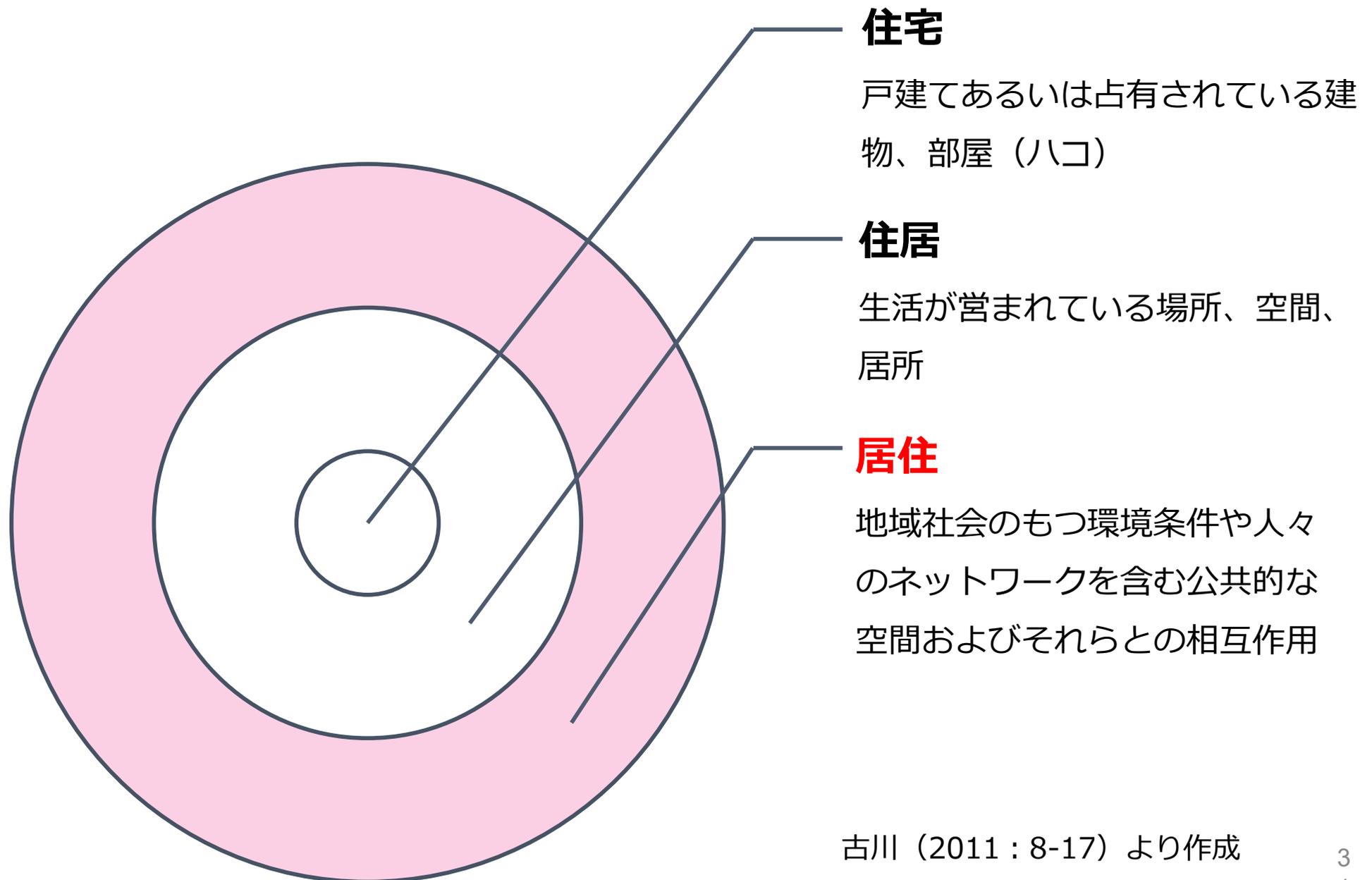
■ 地域とのつながり

※人の生活は、関係の連鎖によって営まれている



“生活”を支える

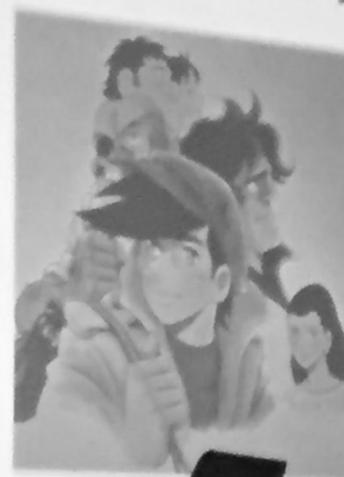




地域ケア連携をすすめる会
シンポジウム 資料

2017/3/19

山谷地域の現状について



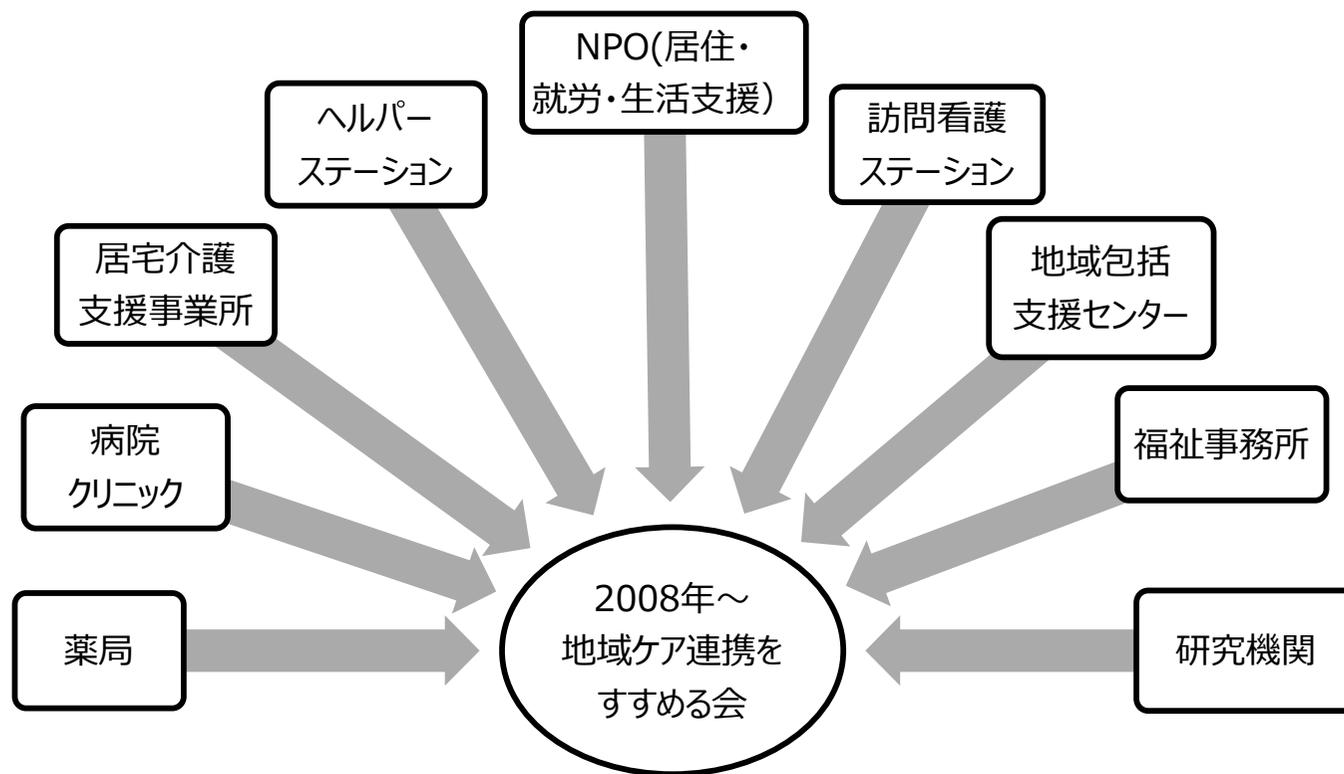
地域ケア連携をすすめる会
事務局 町屋 赤坂ビル402号

山谷・地域ケア連携をすすめる会の 取り組み

地交D-7

設立経緯

2008年、山谷地域及び近隣で活動するさまざまなNPO（居住・就労・生活支援を行う団体）や、訪問看護ステーション、ヘルパーステーション、居宅介護支援事業所、病院やクリニック、薬局、地域包括支援センター、福祉事務所、研究機関などの関係者が参加して始まった（オブザーバー参加も含めて）。



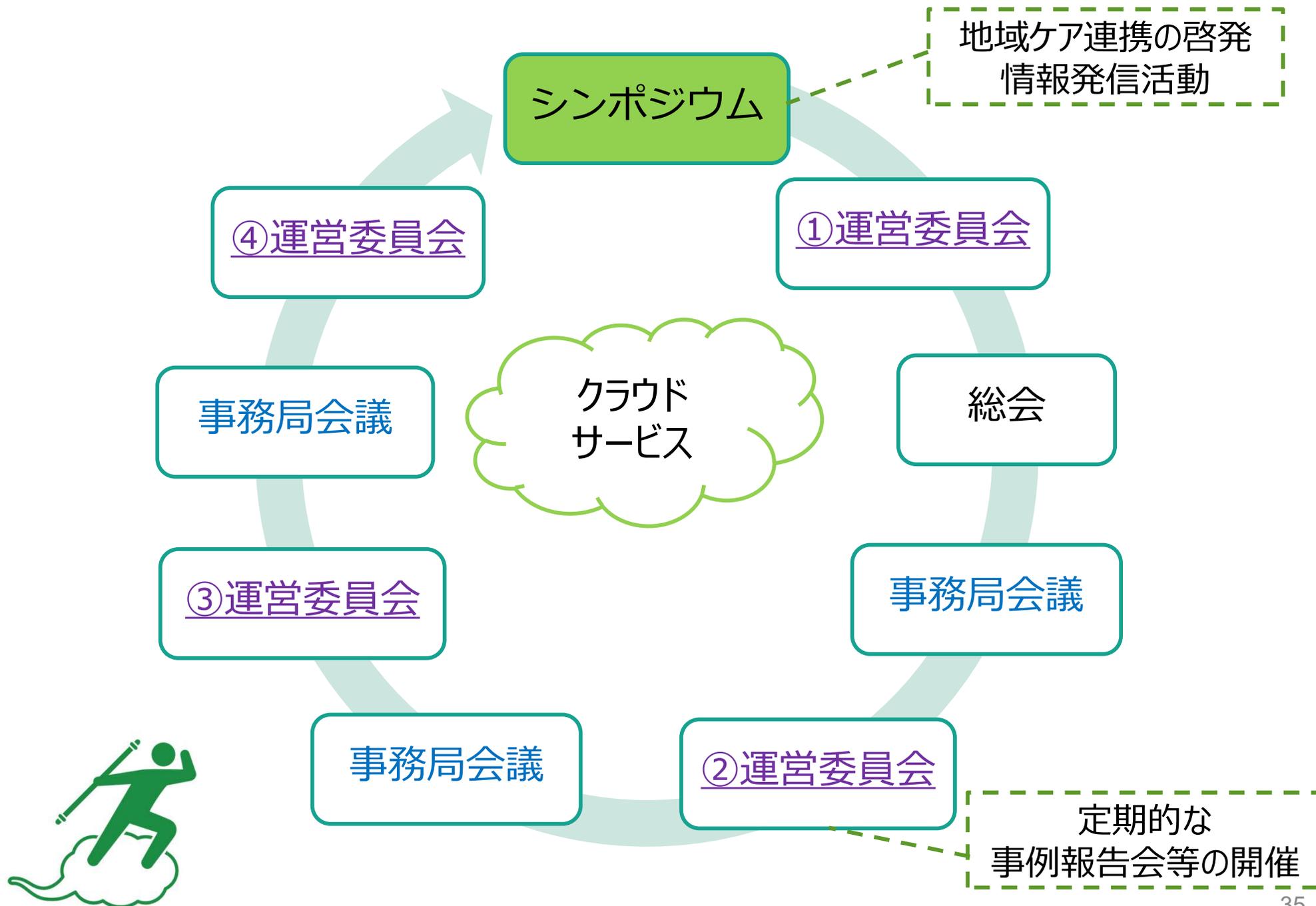
【会員】
団体会員 10団体
個人会員 14名
オブザーバー会員 4名

会の目的（規約より）

本会は、
台東区・墨田区・荒川区を中心に、
路上生活者・生活保護受給者など生活が困難な
状況にある人々に対し、居住支援や生活支援と社
会サービスの事業者が連携し、安定した住居と生活、
及びより善い医療・保健・福祉サービスを提供する
ネットワークの形成を目的とする。



活動内容・年間スケジュール



活動光景

運営委員会



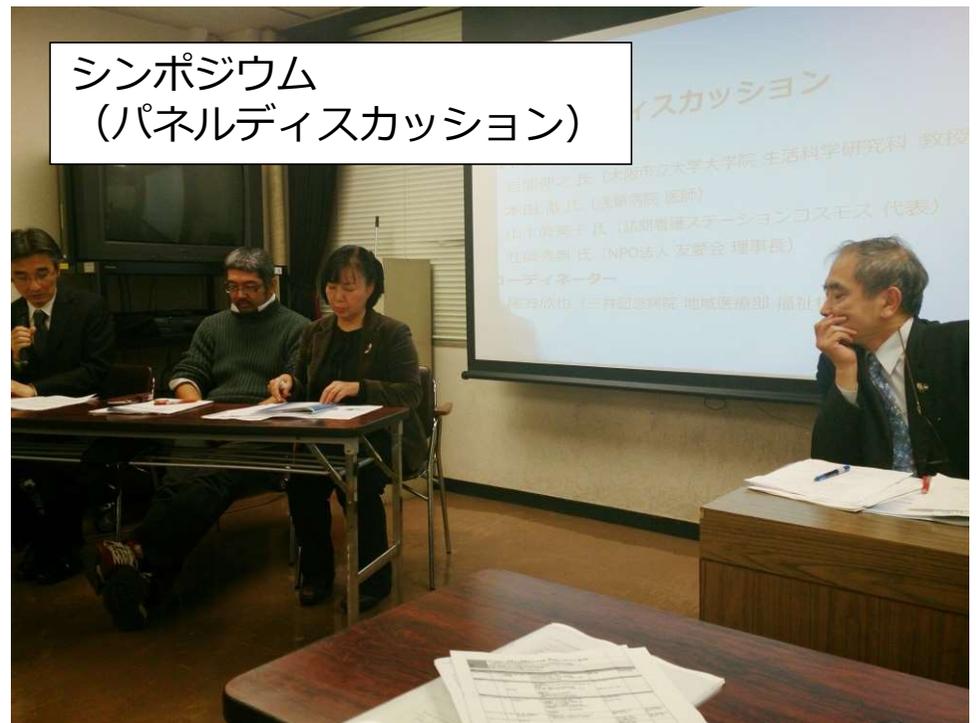
事務局会議



シンポジウム
(フロアディスカッション)



シンポジウム
(パネルディスカッション)



時期	テーマ
2020/08 第1回 運営委員会	新型コロナウイルス感染拡大下における現状の共有 －現状報告と共有
2020/10 第2回 運営委員会	台風などの風水害による災害時に備えて、私たちができること －出席機関からの防災訓練報告 －出席機関からの情報提供
2020/12 第3回 運営委員会	経済的に困窮した人が、地域の中で必要な医療からとりこぼされないために －無料低額診療事業の概要 －無料低額診療事業事例検討
2021/2 第4回 運営委員会	山谷地域の地域ケア連携での感染対策を考える －感染対策上の不安・悩み、感染対策の取り組みの共有

時期	テーマ
2021/04 第1回 運営委員会	山谷地域の地域ケア連携での感染対策を考える －感染対策上の不安・悩み、感染対策の取り組みの共有
2021/06 第2回 運営委員会	山谷地域の地域ケア連携での感染対策を考える －感染対策上の不安・悩み、感染対策の取り組みの共有 －各事業所の利用者や職員のワクチン接種についての状況共有
2021/08 第3回 運営委員会	山谷地域の地域ケア連携での感染対策を考える ～感染拡大の第5波を乗り越えるために～ －感染対策上の不安・悩み、感染対策の取り組みの共有 －山谷地域の生計困難者を取り巻く状況の情報共有
2021/11 第4回 運営委員会	生活支援施設で自宅療養を余儀なくされた場合の医療・介護の継続 －生活支援施設で自宅療養を余儀なくされた場合の医療・介護の継続のあり方

パンデミックという災害時においても地域ケアを継続させるために

プログラム

第1部

報告 『地域ケア連携をすすめる会 第13期の議論のまとめ』

報告者 尾方 欣也（三井記念病院／本会 運営委員長代行）

第2部

講演 『事業継続計画（BCP）の基本的な考え方（仮）』

講師 蛭間 芳樹 氏（株式会社日本政策投資銀行）

第3部

グループワーク 『コロナ禍におけるBCP策定』

講師 蛭間 芳樹 氏（株式会社日本政策投資銀行）

第4部

パネルディスカッション

『パンデミックという災害時においても地域ケアを継続させるために』

パネリスト 蛭間芳樹 氏（株式会社 日本政策投資銀行）

榎木裕子、塚本いずみ、渡邊怜子（訪問看護ステーションコスモス）

未定（自立支援センターふるさとの会）／村崎 吉朗 氏（ケアリッツ上野）



地域居住と生活支援がもたらす地域社会へのインパクト

